

2021.03.03 一般質問

平成クラブのはつたに幸一です。今回がいよいよ市議会議員としての最後の質問となります。思い起こせばこの1年、新型コロナウイルスという世界的な歴史に残る感染症に見舞われ、世界は混乱に陥りました。一日も早く収束することを念じると共に、茂原市に対する私の想いの一端が示されることを念じ一般質問を始めます。

なお、昨年12月は、長生病院を含む医療問題、次代を担う子供たちの重要な施策について触れましたが、今回は終了できなかった質問を引き継いでの質問になりますので、ご了承ください

まず、大項目の1番目として、将来の茂原市の産業発展について質問します。

始めに茂原市の飲食店を含む中小零細企業への対策と成果について、中小企業支援や創業支援を30年以上もしてきましたが、具体的に例を挙げてどのような効果があったのか、検証していますか。検証しているのならその結果についてお伺いします。

次に令和2年2月16日にスマートインターチェンジが開通し、圏央道の完成も出てきた今、利便性が向上する中で私は、議員当初から二宮地区の発展について、バスターミナルや道の駅構想について進言してまいりました。その中で国府関市営住宅跡地利用や真名市営住宅地の今後の見通しについても言及して参りました。前回質問では、サウンディング調査により、物流倉庫利用を検討の上売却意向とのことでしたが、改めて国府関市営住宅跡地利用について二宮地区の開発という視点で真名地区も含めてどのように考えているのか具体的な検討案についてお伺いします。

3番目としてひめはるの里について質問します。ひめはるの里は私が少年の頃から茂原公園と並んで茂原の観光スポットとして有名でした。その後、株式会社ニチイグリーンファームに貸与して来たわけですが、残念ながら任期を待たずに撤退の運びとなりました。当所の茂原市の目論見からしてこのニチイグリーンファームの撤退に関し、どの様に分析し、何か茂原市として反省することがなかったのか、あるとすればどのような点なのか伺います。また、このネームバリューを活かしていく所存とのことでしたが、官民一体での活用方法は考えていないのか、あるとすればどのような関与を考えているのかお伺いします。

茂原市の将来の産業に関する最後の質問は、農業の活性化に関することです。少子高齢化に伴い耕作放棄地の拡大及び担い手である農業従事者の減少が、全国的に問題になっていると認識しております。私は今までも、クライנגアルテン構想など進言させていただきましたが、今回は別の視点から質問させていただきます。そこで、最初の質問です。

耕作放棄地は、10年前と比較してどのくらい増減しているのかお伺いします。また、農業

従事者の拡大を図るためにどのような取り組みをしているのかお伺いします。最後に 6 次産業化についてです。地域ブランドの育成をも含め付加価値を求める手段として、農業の 6 次産業化が考えられますが、現在茂原市としてはどのような取り組みをしているのかお伺いします。

大項目の 2 番目として、前回に引き続き、再度私が目標としている茂原市の人口増への取り組みについて質問します。まず、ロケツーリズムについてです。茂原市もシティープロモーションの観点からシビックプライドの醸成の上、訪問人口の増加を狙いひいては人口増につなげていくという考えは理解しておりますが、では、その為に具体的にどのような取り組みを行っているのかお伺いします。

次に私が、これまで茂原市発展の一環として取り上げてきたインバウンド対策についてお伺いします。今まで述べてきたように広域観光行政の観点から日本版 DMO の創設などについて進言してきましたが、インバウンド対策はそればかりではありません。前回質問にて、茂原市も建設業、農業、介護の各分野において外国人労働者が重要な人材であるとの認識です。では、茂原市では国際交流協会もありますが、外国人の不満や待遇についての調査、対策にどのような取り組みをしているのかお伺いします。

次に生活弱者の救済についてお伺いします。この言い方は誤解を生む言い方かもしれませんが、生活困窮者ばかりでなく例えば「買い物難民」として苦しむ独居老人なども含め敢えてこう呼ばせていただきます。ではまず、生活困窮者に対してはどのような対応を行っているのかお伺いします。

最後に市役所の在り方についてお伺いします。時期行財政改革推進指針の基本目標として、「職員の育成と資質向上」が挙げられていますが、その経緯についてお伺いします。

以上で第一回目の質問とします。

(再質問)

1. 中小零細企業への対策

- ①具体的な検証結果については把握していないということですか、お伺いします。
- ②これらの支援については形骸化していると思われても仕方ないと思うが見解をお伺いします。
- ③創業支援についても、もう一工夫できないだろうか。例えば石川県七尾市では商工会議所、地元銀行、日本政策金融公庫とタッグを組み、「ななお創業カルテット」と称し成功しているようです。茂原市も独自の仕組みを検討すべきと考えるが、見解をお伺いします。

2. 国府関市営住宅跡地利用について

サウンディング調査だけではなく、二宮地区全体の開発という視点から広くあまねくそして、何よりも優秀な職員たちのアイデアの中から将来の茂原を見据え、茂原市自ら考えていく意向はないのかお伺いします。

(要望)

私は、茂原市民及び茂原市外の方々からも、広くあまねくアイデアを募集することも一案ではないかと考えます。

3. ひめはるの里の活用について

これもサウンディング調査だけでなく、茂原市の構想を独自に考えることはないのかお伺いします。実は昨年、レイクウッズガーデンひめ春の里を訪ね、担当責任者と話をするなど視察をして参りました。維持費が年間 2 億円かかり、万年赤字続きとのことでした。奥のロッジは危険で使えず、温室も立ち入り禁止状態で、改修のためには、足場だけでも 800 万円かかるとのこと。橋もすべては改修しきれず 2 年前の台風等で片しきれずに大きな倒木が散見される状態でした。茂原市に対しては、元々あった水道管やこれら設備の老朽化の問題、市民への無料開放時の時の対応や八幡湖を綺麗にする問題その他いくつか協力を得られなかったことを残念に思っているとのことでした。ニチイの問題として片づけ、茂原市としての反省がなければ、今後も同じこと繰り返すのではないのでしょうか。見解を伺います。

4. 農業の活性化について

- ①耕作放棄地は減少しているとはいえ、現在も約 350 h r あるとのことですが、具体

的にどのような状態のものなのかお伺いします。

- ②実際はこれらの耕作放棄地に加えて、草刈等の維持管理は行っているが、営農がされていない農地等を今後どのように再生していくのかお伺いします。
- ③今まで耕作されていたが、後継者がいないと等の理由で、農作物の作付けがなされていない農地の解消策として、国が推奨している営農型太陽光発電がありますが、茂原市ではどのように考えているのかお伺いします。
- ④営農型太陽光発電については、課題もあると聞いていますが、どのような課題があるのかお伺いします。
- ⑤何事も新しい試みは最初から全て順調にいくことは難しいのが常ですが、国も 2050 年カーボンニュートラルを宣言し、グリーン社会の実現を目指している今、まさに格好のケースであると考えます。この営農型太陽光発電を特定の地域でモデル的に実施することは可能なのでしょうか、お伺いします。
- ⑥新規就農者や認定農業者への機械購入費の支援はあると認識していますが、茂原市でも一番多いのは兼業農家の皆さんだと思いますが、いかがでしょうか。この兼業農家への機械購入費の支援についてはどうお考えなのかお伺いします。
- ⑦昨年茂原市内に民間による野生獣肉処理加工施設が建設されましたが、茂原市としてジビエを 6 次産業化の特産として PR することが良いと思いますが、茂原市の見解をお伺いします。

(要望)

6 次産業化に必要なのは、確かにその製品作りですが、私は PR のための仕掛けも重要なファクターだと考えます。例えば、ふと巻きずしも単に「田舎寿司」というだけでなく茂原独自の命名をし、宣伝するとか、これから質問するロケツーリズムを活用し、ねぎっぺ餃子を全国区に登場させるなどの工夫などを提案します。

(2) 人口増への取り組みについて

5. ロケツーリズムについて

当初からロケツーリズムを提案、推進してきた私には、茂原市の取り組みが、単に撮影場所の提供に留まり、「受け身」と感じ、まだまだ甘いと感じます。シティープロモーションにおけるコンセプトをどう考えているのか、茂原市活性化の起爆剤と考え、市民のシビックプライドを醸成し、さらにはマスコミを巻き込んで、撮影場所の利点を活かすために全国あるいは世界の多くの方々から奇抜なアイデアを募るなど積極的に仕掛けていくなど考えていくべきだと思いますが、見解をお伺いします。

(要望)

私が提言してきたインバウンドを対象とした観光行政の確立の一端として、企画する

ことも大いに意義があると考えますので、推進することを要望します。

6. インバウンド対策について

外国人の労働に対する相談がハローワークや千葉労働局で、受け付けているのは、理解しましたが、例えば、その子弟の教育などについて何か問題となることはありませんか、お伺いします。

(再々)

もし、学校に行けていないなどの問題が想定された場合には、どのように対処するのかお伺いします。

(要望)

私の知る外国人は、まじめで異国の地で一生懸命頑張っていると思います。労働人口が減少していく中で、そういう外国人を積極的に取り込んでいく事が茂原市のPRになると私は考えますので、よろしくお願い致します。

7. 生活弱者の救済について

例えば、ひとり親家庭の子供の教育や生活について、特にコロナ禍において問題はないのか、又、独居老人の買い物難民問題はないのか、この2点について把握しているのなら、その対策をどう考えているのかお伺いします。

8. 市役所の在り方について

①市民サービスの向上と市行政の発展のため継続的に職員の資質向上を図る取り組みは必須であるのは、当然のことではありますが、いわゆるPDCAサイクルでいうCのチェックですが、市民からの意見やクレームについては、例えばどの様なことがあり、どう分析し、行財政改革推進指針でどの様に対応することになったのかお伺いします。

② 昨年暮れ東郷地先の通学路使用の道路で、以前、安全確保のため水路の上部を整備し、現在歩道として利用しているが、道の半分ぐらいをガードレールが占めている所があり、東京から越してこられた方に茂原市のセンスのなさを指摘されたので、地元自治会にお伺いしました。自治会長の話を聞くと実は、地元自治会では過去に救急車が入れずに亡くなった人もいるとのことで、平成16年に要望書を市に提出しているが、今後どう対処されるのかお伺いします。

(再々)

現地を見ればわかりますが、予算の都合もあり取り繕った対応は致し方ないとしても地元自治会では、未だ現況は変わらないという認識で、地元小学校、自治会、両総

土地改良区もすでに承知をしており茂原市の姿勢が問われている問題であると私は考えます。市民の言うセンスだけの問題でなく、安心安全を第一に唱える田中市長からすれば、非常時に救急車輛が通れないことは由々しき問題と考えます。田中市長どう思われますか、見解をお伺いします。

③(副市長に対し)

豊田副市長覚えていますか。今から5年前、平成28年9月議会で、私が一般質問で職員の意識向上に関する質問を当時の総務部長だったあなたに投げかけたことを。その時の答弁は、「お客様の気持ちに立った対応をスローガンとして、公務員としての心構えや接遇についての研修を実施するとともに週1回の部長会、月1回の部課長会、更には全職員を対象として庁内情報システムにより、周知を図り職員意識の維持、市民対応の向上に努めている」と胸を張って答え、その後の私の提案をなんら聞いてもらえなかったことを。そして、昨年私は、閉庁日における市民への対応の問題、即ちイノシシを自分でごみ袋に入れて捨てるといったテレビでも取り上げられた問題、あるいは一昨年の県道わきの犬の死骸の処理で市に相談するも無視されPTAの方が片づけざる負えなかった件については案件の特定ができないなどと発言のあった問題などは個人の問題ではなく体質の問題と考えますが、いかがですか豊田副市長にお伺いします。

(市長)

私は前回と今回の一般質問を通じ、「安定した医療の提供」「子育てにやさしい街づくり」「農業をも含む産業の確立」「ロケツーリズムなどのシティープロモーション活動」「インバウンド対策」「市民への温かい対応」などにより人口増を図り、魅力的な茂原市を目指すことを願い、最後の質問をさせていただきました。

茂原市を含む長生郡市には素晴らしい可能性があると思っています。その可能性を引き出すためには、人の知恵や人の輪が必要です。中でも行政のかじ取りが大きな役割を担います。茂原市の職員は真面目ですが、行政に対する知識や認識がその能力にもかかわらず発揮されていないと私は思います。一昨年視察でお会いした栃木県宇都宮市や新潟県新潟市の女性係長の街への思い入れが、肌で感じられた素晴らしい対応をぜひ見習ってほしいと考えます。副市長いかがですか。また、石川県白山市や岩手県滝沢市の職員が「おらが街」との思いで、他任せにせず何とかして人口増を図りたいとの思いで地域開発を自らの考えで推進しているという市トップの情熱を強く感じました。サウンディング調査もプロポーザルもこの観点から遂行して下さい。茂原創生は「人の動きを創る」ことから始まると思うのです。観察と創造そして実践。過去ではなく、現状分析のもと、今と未来が大切です。政治は創造であり実践であります。ドイツのマックス・ウェーバーが「政治とは、情熱と判断力の2つを駆使しながら堅い板に力を込めて、ジワッジワッと穴をくりぬいていく仕事である」と名言を残しています。最後に田中市長に質問します。これからの4年間余りの茂原市創生に対する覚悟をお聞かせく

ださい。